

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム 第15回会合 議事録

1. 会合の概要

日時： 2022年3月7日(月)17:00～19:00

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 20

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

飯田 陽一	総務省
井口 和彦	株式会社ドヴァ
加藤 幹之	MK Next
金海 好彦	日本電気株式会社
上村 圭介	大東文化大学
河内 淳子	一般財団法人国際経済連携推進センター
木下 剛	一般財団法人インターネット協会
木村 孝	JAIPA
佐々木雅人	フリーランス
佐藤 信二	個人
実積 寿也	中央大学
白壁 角崇	総務省
高松 百合	株式会社日本レジストリサービス(JPRS)
中田 諭輔	日本ネットワークイネイブラー株式会社
浜田 忠久	JCAFE
堀田 博文	JPRS
本田 聖	個人
前村 昌紀	JPNIC
森口 友里	株式会社インターリンク
山崎 信	JPNIC

司会進行： 本田 聖

議事録案作成： 山崎 信(JPNIC)

2. 発言録

【前村】 それでは、第15回の活発化チーム会合を進めてまいりたいと思います。皆さん、よろしく願いいたします。

司会に関して、毎回、私でよろしいですかということをお伺いしながら、前回の会合のときに、では誰かができるようにしたほうがいいですよというふうな御指摘を本田さんから頂きましたけれども、本田さん、その辺に関して、一応あらかじめ前広に資料を準備したりしたんですけど、どうですか。

【本田】 お疲れさまです。いや、別に私は前村さんがやることに異議を唱えているわけではなくて、ほかの人もやっぱりやったほうがいいと思うし、それは負荷の分担ということでもありますし、最初から司会をどうするといったときに、一応ラフコンセンサスも——ラフコンセンサスと言ったか分からないですけども、誰でもできるようにしましょうというような感じで決まっていたと思うので、逆に、前村さんの発言とかを生かしていただきたいですよ。だから、司会をやっていたら、前村さんが議長なので、結局、言いたいことが言えなくなっちゃう。

【前村】 いや、それは言ってますけどね。

というわけで、本田さん、今日本田さんやってみたらどうです？

【本田】 だから、それは私、やってもいいですよという意味で言いました。

【前村】 分かりました。じゃ、そうしましょうか。

その前に、木下さんいらっしゃっているんで、なかなかタイミングが合わずにいらっしゃれていなかったんで、木下さん、ちょっと御挨拶していただいてよろしいでしょうか。

と言って、簡単に声が出ないかもしれないんですけど。あるいは、ちょっと御不在なのかもしれないですね。であれば、分かりました。今思ったことだったので。

じゃ、本田さん、よろしく願いします。

【本田】 この会合には初期から出ていますので、大体の流れは理解しているつもりですが、何とか。

アジェンダを山崎さんが用意していただいて、まず体制案と、それから、イベントの推進体制について、これもペーパー用意しています。

プログラム委員、これについてのまず進め方（案）と、それから、プログラム委員を募集していましたので、その状況についても報告していただけるのではないかと思います。

あと、4つ目、ここは結構大きいところかなと思います。今後のIGFに限らず、これはインターネットガバナンス関連活動と書いてありますので、IGFということにとどまらず、組織化全般についての考え方、フレームワークのところではないかと思います。

5つ目は、これ、ユースIGFということで、ちょっとぼっと出のような感じもしますけれども、実は前回の報告会をやったときに、総務省のアレンジで、お一人ユースの方が出ていただいたんですね。

裏で話してしまして、裏でというのは、運営を担当した3名で話してしまして、非常に良かったよねと、新しい視点が入って良かったということで、ぜひユースの皆さんを交えたIGFの新たな気運の高まりと
いうのを提案していきたいと、そういったところです。

では、山崎さん、ちょっと下を。私、めくれないので。

そうしたら、打合せの目的を確認しましたので、前回の振り返りですね。ここはどうでしょう、山崎さん、前回の振り返り、簡単にさせていただくのはどうでしょうか。

【山崎】 はい。いつも私がやっています。

政府からということで、飯田さんから今年のIGFのスケジュールが共有され、IGF 2022の状況が報告されました。2023については、夏以降にIGF事務局、国連から視察団が来る予定というところで、そこで、それまでに国内IGFができていないといけないのかということについては、別にそういうことはないけれども、あったほうが良いという程度と。ただ、上村さんからは、2022の本会議までですね。だから、その視察団ではないですけれども、本会議までには国内IGFとして顔が出せるようにすべきだろうという後意見がありました。

ほかに、今年、来年の国際会議の情報も共有いただいたということですね。

MAGメンバーについては、河内さんから、2月後半にMAG会合の第1回と、それと同じ時期にオープン・コンサルテーションがあったということについて御報告があり、6月には第2回があると。それが対面でやる予定ということでした。

今年のスケジュールですけれども、来年のIGF日本開催の際にセッション提案を行うに当たって、スケジュールはどうなっているかという御質問が木村さんのほうからありましたので、毎年同じということですので、推測したものを資料としてお見せしたと。それに対して意見としては、事前会合よりも本会合としたほうが良いのではないかとということですね。

セッションの募集の開始を早めて、今月中にしたほうがよいということと、公募だけだと、公募を締め切ってから来た人が何か提案したりとかということができなくなるので、複数の種類にしたほうが良いのではないかとということでした。

次に、IGF 2021の報告会の振り返りですけれども、事前に体制をしっかりとしたものを作っておきたい。さっき本田さんも触れましたけれども、ユースとして高校生が参加したのは良かったので、今後ユースをどうにかしたいということ。

アンケートで書かれていた、「誰のためのガバナンス」ということを当日議論拾えるとよい。

セッションの時間がどれもぎりぎり、質問を1個拾えた程度というのはあまりよろしくない、もうちょっと質疑に余裕を持たせるべき。

質問がなかなか出ないというのも反面あったように思うので、投票機能を使うなり、質問を投げかけるなりして議論を活性化してはどうかといった御意見がありました。

その次に、国内IGF活動の組織化ですけれども、オープンコミュニティという機能と、事務局組織の運営としての総会・理事会というのに分かれていて、活動主体は企業、個人というのだと、個人なのではないかと。

その次に、法的な組織の構造を考えたほうがよくて、日本の制度だと一般社団法人になるのではないかと。その中でIGF活動を委員会なりタスクフォースという形でやるのが議論内容に当てはまるのではないかという御意見がありました。

この事務局の運営に責任を持つ一般社団法人の社員と活動主体とは同じではなくてよいという御意見。

コミュニティからの信託を積極的に表すために、指名委員会（NomCom）ですとか、有識者が公益性を担保するとかいったことを設計に盛り込む必要があるという御意見がありました。

寄付額に関係なく会員総会では1組織1票といったルールを決めるほうがよいという御意見もありました。

事務局規模は年間1,000万ということを前提とするけれども、一般社団法人にした場合、費用感がどう変わるかは宿題ということでした。

そんなところだと思います。

宿題ですけれども、ほぼ議事録関係ばかりになってしまって、すみません、ほとんど進んでいませんが、あまり古いのを今頃出してもほとんど意味がないと思いますので、最新の第14回から着手しております。その成果の一部は、今述べました振り返りに活用させていただいております。

そんなところでしょうか。本田さん、以上です。

【本田】 ありがとうございました。

御質問とか御意見あれば、今までの振り返りのところで、あれ、どうだっけというようなところも含めて、おありでしたら。

JAIPAの木村さんお見えですけれども、いかがでしょうか。

【木村】 木村です。どうもお世話になってます。

いや、特に異議はないんですけれども、JAIPAはIGF 2023にちょっとセッションの提案をしようと考えていまして、いろいろ準備しております。今、具体的な案は幾つか持っているんですけれども、そのうち、3月中ということでしたので、出そうと思っていますので、よろしく願います。

【本田】 ごめんなさい、私も予定がよく分かっていないので確認なんです。2023のものが3月というのは、来年の3月ということでもいいですね。今年でしたっけ。そこがよく分かっていなくて。

【木村】 今年でも来年でもいいですけど、2023に出すためには、2022で頭出しというか、その手をやろうと思ってですね。ですから、そういう意味で、今年も出しますし、来年も出しますし、さらには、APrIGF、まだちょっと時期が決まっていないと聞いていますけれども、そこにも出そうとは思っています。

【本田】 ありがとうございます。

そういったスケジュール等については、山崎さんとかJPNICの皆さんがよく知っていらっしゃることもかもしれませんが、適宜皆さんに情報交換していただくとよいかと思います。

木村さん、ヘッドアップありがとうございました。

【木村】 よろしくお願ひします。

【山崎】 私からというよりも、IGFの本家については、河内さん、飯田さんから共有が既にありましたけれども、適宜あるかと思ひます。

国内については、我々でスケジュールを決めていくということになるのではないかと思ひます。

木村さんのセッション提案というのは、IGFグローバル、本家のほうに提案ということですか。

【木村】 はい。グローバル、本家のほうに出そうと思ひています。

【山崎】 それに当たっては、いきなり出すよりも、前の年に出したいし、その予行演習という言い方が適切かどうか分かりませんが、国内IGFでまず議論して、アジア太平洋地域のIGFに持って行って、グローバルに出せるという形にできれば、一番形としてはきれいですね。

【木村】 そうですね。いきなり本番に出してもという感じで。

【山崎】 時系列的に、国内のIGFをやる前に、アジア太平洋のほうが来ちゃいますので。大体いつも9月にAPriIGFは開催されますので、今年に関しては、先にAPriIGFに出してということになってしまふのかなと思ひます。

【木村】 そうですね。そういう順番だと思ひます。

【山崎】 9月より前に国内IGFをしようというのは非現実的だと思ひますので、なってしまうかなと思ひました。

【木村】 そうですね。

【本田】 ありがとうございます。

そういった細かいところも適宜共有しながら、日本としてある程度まとまってプログラム提案していくというのでもいいかなというふうには、私、個人的には思ひます。

山崎さん、ページ1つ上に戻っていただひいていいですか。もう1つ下にしていただひいていいですか。

このアジェンダは皆さんのところにもURLは提供していますよね。チャットにもちょっと貼っておいていただけですか。私、今この画面しか見れないんですけれども。そうすると、適宜皆さん読みながらついてこれると思ひますので。

【山崎】 分かりました。

【本田】 そうそう、ごめんなさい、宿題のほう、戻っていただひいていいですか。

山崎さん、心配しているのは、山崎さんのアサインが多いので、外部の業者を利用して書き起こしというか、作っていらっしゃるともお聞きしましたがけど、大丈夫でしょうかというところが心配です。

【山崎】 今第14回に取り組んでいるんですけど、機械書き起こしよりは十分クオリティが良くはなっているんですが、貼って、はい、出して終わりではやっぱり済みませんで、ちょっと細かいところを直しているところです。

そういう意味では、タイムリーに出すのって。本当は今日始まる前に14回を出したかったんですけども。先ほどの振り返りの内容で代えさせていただくしかなかったという結果で。

【本田】 これも私の意見になってしまうんですが、録画というのが、今YouTubeは、オートスク립トというか、自動で付きますよね。なので、議事録ではないんですけども、しゃべっていることはそこで文字にもなりますので。それは多分、システム上、文字を取り出すわけにいかないのかもしれないですけど。まず録画を公開されるというのはいかがでしょうかね。

【山崎】 だから、これまでそうしていますよ。

14回については、完全公開していないですけど、今MLで皆さんに確認いただいているところですので。

【本田】 じゃ、12回と13回も、もういずれできるということで。

【山崎】 いや、もう13回までは全て公開していますよ。

【本田】 完了が付いていないですけど、しているということでいいですよ。これはね。失礼しました。

【山崎】 ごめんなさい。そうですね。

【本田】 じゃ、項番4に行きましょう。

では、飯田さんですね。現状の報告としてお願いしたいと思います。

これもちょっと御提案ですが、言葉だけですと、やはり分かりにくいところがあるので、簡単にでもいいので、事前にアジェンダに織り込めるように、事前に教えていただけるといいのではないかと、また私の個人的なアイデアですが。お願いいたします。

【飯田】 すみません。なかなか書いたものの提供ができなくて申し訳ないんですけども。

今日御報告できるのが、1つは、去年のIGFをやったときに思ったわけですけども、200ぐらいセッションがあって、6つのテーマと言いつつ、いろんな形でそれを取り上げて、本当に様々なステークホルダーが意見を言っているのが、その場で割と過ぎていってしまうと。当然そんなのを全部聞けるわけもないし、それを全部集約できるわけもないんですが、ただ、いろんな意見が年を経ていろんな形が変わっていったり、課題が解決されたり、解決されなかったりというのをある程度は理解していないと、ホスト国として課題設定していくときに、全く大きな流れを把握しないまま、日本の視点だけでものを言うおそれがあると思ったので、何とかしたいと思ひまして。

幸いセッションの録画が全部残っているのと、それから、サマリーの議事録みたいなものもある程度見れるということになっているので、これをどなたか、ある程度インターネットガバナンスの議論が分かる方にまとめていただいて、今後の資料にしたいと思って、総務省の委託事業として発注をしました。

これ、今までお話ししていなかったんですけども、今年度の予算なので、もう割と作業期間は短いんですが、IGFが終わってから考えたので、今年になって企画をして、発注をして、この前調達手続きが終わりまして、幸いJPNICさんに応札していただいたので、今後作業をしていただくことになっております。

ここにいらっしゃる方にもお手伝いいただける余地もあると聞いていますので、ぜひ積極的に御参加いただいて、いろんな形あるかと思しますので、そこは私のほうは細かく入る立場ではありませんけれども、意図としては、要は、今年のIGFでどんな議論があったのか、それがどういうふうに議論され、結論が出るようなものではないですけども、どういうふうにみんなに理解されているのか、それは来年、再来年に向けてどうなっていくそうなのか、あるいは、我々として、それをどうしたいと思うのかという材料を少しでもそろえたいということです、それはちょっと御理解いただいて、積極的に御参加いただけたらありがたいなと思っていますし、成果を頂いた暁には、それをまたみんな参考にしなが、来年に向けての議論に使っていければと思っています。それが1つです。

あとは、省内的にはなかなか進んでいません、いろんなことが起きていますもので、特に今見ておかなきゃと思っているのは、ロシア、ウクライナの周辺ですね。いろんな情報戦が繰り広げられているとか、いろいろニュースにもなっていますので、ここから学ぶべきこととか、この中で今後アプローチしていかなくちゃいけないことがあるのかないのか。あんまり政治的なことを取り上げてもとは思いますが、一方で、重要な課題は当然出てくると思いますので、そのあたりもまた今後皆さんと議論していけたらいいかなと思っています。

あとは、IGFそのもののほうは、また河内さんから御報告あればと思うんですが、今、MAGで今後のセッションの計画とかを立てていますので、すみません、今正確なスケジュールが浮かんでこない、もし河内さんのほうで御報告あればお願いしたいと思います。

今回あまり進捗なくて申し訳ないですが、事業の発注についてはそんな感じですので、もしJPNICさんから何か補足があれば、お願いしたいと思います。

以上です。

【前村】 お呼びがかりましたので、前村でございます。ありがとうございます。

今、飯田さんから御紹介がありましたように、その仕事の内容も御説明していただきまして。インターネットガバナンスに関心とかエクスパティーズがある方々というのは、もうここにいらっしゃる事が分かっていますので、ここにいらっしゃる方々に個人的にお願いをして、既に御協力いただけることになっております。どうもありがとうございます。

というわけで、そちらのほうの話は別途やっていっているところなので、皆さん、今後とも御協力よろしく願いいたします。

以上です。

【本田】 ありがとうございます。

飯田さん、もしくは前村さんの今の御発言に、御質問とか御意見などおありの方いらっしゃいませんか。

これはいつも手を挙げるという形でやっていたよね。

【前村】 挙手ボタンでもいいですし、声を上げてもいいんじゃないですか。何でもいいと思います。

【本田】 特にはよろしいでしょうか。

じゃ、私から。飯田さんに、私のほうからしゃべると時間がなくなってしまうので、短くしますが。

要は、ポイント・オブ・コンタクトですね。要は、連絡係というか、そういったものの御提案をしたのと、それと併せて、ヒューマンリソースといいますか、そういったことはお願いできないでしょうかというお話を過去にもしていました。

それから、各省庁、エンゲージメントのところでやって実感したんですが、やはり総務省だけではない、ほかのインターネットガバナンス関連の政策に関連する省庁へのつなぎ込み、そのあたりについて、今日は進捗がないのかもしれませんが、何かあれば、手短にお願ひできないでしょうかというのが私からの意見です。

【飯田】 コンタクトについては、大変恐縮ながら、我々、リソースが限られておりまして、ふだん参加している私か門屋をお願いします。それから、データ（通信）課の課長以下、白壁補佐とか、そのメンバーにコンタクトいただければ、誰でも大丈夫です。

一方、省内の体制、いろんな部署がテーマごとに関わってきますが、そちらはまだちゃんと編成できていないので、そこがこれから皆さんと直接コンタクトを持っていただけるようにしていきたいと思っていますけど、ちょっと時間かかっています。

各省になると、またその先になるもので、外務省なんかとは話はしていますけれども、例えば、各省と話しても、じゃアジェンダはどうなんですか、何月何日なんですかという話になっちゃうので、とりあえず今のところ、何とか省のコンタクトはの方ですとか、何とか省と何とか省が加わりますというところまでちょっと交通整理ができていませんので、そこは省内の体制をつくった上で、すぐにまたアウトリーチしていきたいと思いますので。

例えば、こういう課題についてはぜひ取り上げる必要があるので、こういう役所は巻き込む必要がないんだろうかみたいに個別具体的なものがあれば、また御相談いただければと思いますので、それは順を追って、なるべく早くやっていきたいとは思っています。

ということで、あまり進捗なくて申し訳ないんですが、コンタクトについてはそういう状況ですので、いつでも話しかけていただければと思います。

【本田】 どうもありがとうございました。

総務省とは、JPNICの皆さんはメインというか、そこだけではない、JAIPAさんもコンタクトをお持ちだと思うので、そういったチャンネルももちろん既存のものを活用しながら、また広げていければというのが私の意見です。

それと、他省庁と言っていますが、今お話のありました、じゃどうやって広げるんですかというところについては、また別途の私のほうで作って、私なりの頭の中のところを御説明できるようなものを作ろうと思っています。

では、河内さん、よろしいでしょうか。河内さん、MAG報告についてです。いかがでしょうか。

【河内】 すみません、聞こえますでしょうか。

【本田】 大丈夫です。

【河内】 すみません。今資料を1枚チャットに貼りたかったんですけど、貼り方が分からなくて、今、山崎さんにメールで送ったので、ここに貼っていただければと思うんですけど。とりあえず画面共有します。

【山崎】 私が共有していました。これでよろしいですか。

【河内】 ですよ。私じゃないですよ。おかしいなとか思って。

それで、これ、実はもう先週のMAGの会議の事務局がまとめた本当に1枚半ぐらいの紙なんですけど、もう公開されているものでしたので、これを機械翻訳をかけまして、3ページ目から機械翻訳が出ます。多少直しましたが、最近の機械翻訳、非常に性能がDeepLとか良くて、体裁を整えた程度で、ほとんどそれを使っています。

一応今回のMAG、3日間あったんですけど、1日目、2日目は、1番のメインテーマというか、包括的テーマというんですかね、それはいろんな議論があって、投票とかもしたあげくに、結局、ここが一番上に書いてある“Resilient Internet for a shared sustainable and common future”というものにするということに決まりました。

私、あんまりバックグラウンドがちゃんと分かっていなくて、このGDCというのに沿って、いろいろディスカッションとかされていたんですけど、一応5つのテーマというのがここで合意されたということになっています。

実は、この後のところで出てくるんですけど、下に行ってください、結局、このベストプラクティスフォーラム（BPF）というのと、ポリシーネットワーク（PN）という、この2つは、4つしかできないんだけど、これを何にするかというところで、2日目の後半から3日目にかけてかなりもめまして、今ここに5つ並んでいます、それが決まらなくて、結局、ちゃんとしたBPFとPNに関する提案を出してもらって、明日の夜中にまたもう一度会議をすることになっています。そこで4つに絞って決定するということになっています。

もうちょっと下に行ってください、ワーキンググループについては、この4つの更新が承認されたということになっていて、ここら辺、もうちょっとちゃんと私、勉強しないと、どういうグループで、どういうふうにやっていくのか、どこに入らなきゃいけないのかとか、その辺、これから皆さんに御相談させていただいて、やっていければと思っています。

簡単な報告ですけど、以上です。

質問していただいても、答えられるか分かりませんが。

以上です。

【本田】 ありがとうございました。

質問は、ちょっと易しめの質問があれば。どなたか。

MAGには3日間お出になったんですよ。

【河内】 出ました。

【本田】 前村さん、おありですか。

【前村】 いいですか。BPFとPNに、ポリシーネットワークって、実は私、あんまりよく分からないんですけども、ここ、数の限りというのは、これ、会議フォーマットで、もうしょうがなく数を絞るしかないんだと、そういうことなんでしょうかね。

【河内】 多分そうだと思います。すみません、ちゃんと書けなくて。

一応、今ここに5つ並んでいるのを見ていただいたら分かるんですけど、ジェンダーに関するBPFと、サイバーセキュリティBPF、それをくっつけちゃったらどうみたいな、ジェンダーとサイバーセキュリティに関するBPFというのと、PNは、インターネットの分断化と環境と——すみません、この意味あるインターネットって、文字が変になっていますけど、これ、アクセスの問題ですね。

なので、上2つをくっつけちゃえば、これで4つになるじゃんとか、いろいろそういう議論があって。ただ、正式に明日の会議用に出てきている提案は、このくっつけたやつはなくなっていたので、結局、5つの中から4つ選ぶみたいな感じです。

【前村】 ジェンダーとサイバーセキュリティは、ちょっと。

【河内】 くっつかないですよね。

【前村】 くっつかないですよね。

【河内】 と思います。

【前村】 うまく言おうとしましたが、やめます。

【本田】 ありがとうございます。

【木村】 すみません、JAIPAの木村です。

断片化というのは、テクニカルなことと言っていいですか、それとも、文化的なことと言っていいですか。

【河内】 いやあ、そこら辺も私、あんまりちゃんと分かっていないですけど、多分、両面じゃないですかね。今、こういう世の中の状況もあり、と思いますが、いかがでしょうか。すみません、ちゃんと分かっていなくて。

【前村】 これ、英語としてはセグメンテーションですか。

【河内】 いや、その上のほうを見ていただければ分かると思います。

【前村】 フラグメンテーションかな。

【河内】 そうです。

【前村】 なるほど。

そうですね。こっちですね。なるほど。フラグメンテーションですね。

【本田】 ニュアンスとしては、ハードディスクのデフラグみたいな、そういう感じですかね。

【前村】 単純に分断ということなので、文化的なのか技術的なのかというのは、恐らくどっちもだろうなと思えます。

【本田】 それは文化的にもリソース的にも分断しているから、ばらばらで非効率になっている部分もあるんじゃないかみたいな、そんなニュアンスもあるんでしょうかね。

【前村】 文化的には、例えば、言語で分かれてますよね、とかという話もありますし、そうすると、IDNみたいな言い方も出てきたりするんですよね。多義的だと思います。

【本田】 河内さん、例えば、アフリカとか、インターネットが使えない人が多くいる地域があるじゃないですか。そういうところに衛星インターネットをみたいな、そういうのもこの中のどれかに入ってくるんですか。

【河内】 それはアクセスに入るんじゃないですかね。

【本田】 なるほど。ミーニングフルアクセス。

【河内】 じゃないかと。いや、私、あんまり。もうちょっとちゃんと勉強しないとあれですけど。

【本田】 すみません、1つだけ。先ほど言われたかもしれないので、聞き逃しちゃったかもしれないんですが。BPFとPNの違いというのは、ベスト……。聞かないほうがよかった？

【河内】 すみません。ちゃんと勉強します。

【本田】 多分、ベストプラクティスで、こういう事例紹介の部分と、ポリシーネットワークで言うと、こういうポリシーを作っていこうぜというような、そんな感じの大きなジャンルの違いみたいなところでしょうかね。じゃ、またそこは深めていただいて、またメールでも改めて共有いただければと思います。お忙しい中、ありがとうございました。

【河内】 いえいえ、すみません。

【本田】 では、次の画面へお願いいたします。いつもありがとうございます。山崎さん、画面をお願いします。

お待たせしました。では、6番ですね。ここまで今40分かかっていますので、ちょっと巻きでいきたいと思います。

秋イベントについて、推進体制についてとありますが、これ、資料ありますか。

堀田案、本田案、ロジスティックスはどうするか。これは？

【山崎】 あまりいけてないんですが、前回の議論では、エンゲージメントをプログラム委員会に含めるのか、そうでないのかというのが、堀田案と本田案の違いだと認識しています。この辺を受けて、堀田さんからはるかに詳細な資料が出てきていますので、そちらに切り替えます。

ということは、堀田さんはいらっしゃいますね。

【本田】 じゃ、堀田さん、よろしくお願いします。

【堀田】 はい。高松のマイクでしゃべります。

【本田】 どうぞ。

【堀田】 資料遅くなってすみません。今日時点では、まだディスカッションペーパーと書いています。これでどうということまで行っていないという意味で、ディスカッションペーパーと書いています。

今出していただいている注意のところにあるように、一応体制の話にチューンしていて、各サブチームと去年呼んでいたやつ、その中でどうするかというのは、後で拡大化するんだろうと思って、対象外にしています。

簡単にこの資料を上から紹介させてください。

14行目、1.1のところに、去年の体制はこうでしたというのを書いています。活発化チームが直接サブチームを3つ作って、管理していました。進捗管理とか、レポートを受けるとかやっていました。いろんな呼び方がされるという、また混乱の一つだったんですけど、一応この資料ではサブチームと書いています。

それから、1つの成功モデルとして、APrIGFの推進体制というのと比較するというのをやっていました。本田さんの言われるように、APrIGFの体制が日本に合うかどうかというのは、それはまた別途考えなければいけないものですけど、一応成功モデルの一つとして比較をしてみると、26行目以降のように、対応表が作れます。

Program Committee、Stakeholder Engagement Committee、Event Committeeというのは、うちのプログラムサブチームで、これがステークホルダーエンゲージメントサブチーム、イベントチームに1対1対応しています。

あと、CommitteeがAPrIGF側にはいろいろあるんですけど、なくてもいいものなのかなということ、なぜ対応がないんだろうというのを書き出してみています。

Draftingというのは、正式にイベントレポートを作るということをAPrIGFはやっているんですけど、去年の秋イベントはたしか作らなかったよなと思い、作らないんだったらCommittee要らないねということですね。

それから、Fellowshipというものは、うちにはなかったです。

それから、Complaint Handling、これは彼ら成熟してきているので、不平不満を言うやつが出てくると。何でうちの提案は起こったんだとかですね。そういうのはまだうちでは考えなくていいだろうということで、これもなくていいと。

それから、ローカルホストは、去年はフルオンラインだったので要らない、カットです。

それから、Secretariatというのが、これが去年の秋は非常に大きな問題になったんですけど、Secretariatというのが定義されていないせいで、細かい作業とかロジ周りが全部JPNICさん及びJPNICさんを手伝う人たちに多大な負担でかかってしまっていて、ここが定式化されていないから、極端に言うと、作業が落ちたらごめんね状態になってくるというようなところもあるのではないかと思います。

人数は、APrIGF側は、40人ぐらいが運営チームにいます。うちの場合は、多分——これ、15と12が逆になっちゃっていますけど、運営チームが12人ぐらいだったんじゃないかな。プログラム委員も含めて12人ぐらいだったんじゃないかなと思います。

比較から見えるポイントということで書いてみました。44行目。まず彼らは（APrIGFを彼らと言いますけど）、Chairが選挙で指名され、各Committeeの責任者も指名されています。責任者関係が明確になっています。

それから、国内イベントは、正式レポートを作成する余地がなかったというのも、これも大きな違いです。

それから、オンサイト開催とかハイブリッド開催というのを、向こうはハイブリッド開催だったので、ローカルホストが必要だったんですが、うちは必要なかった。

それから、APrIGFでは、Committee間連携、登壇者連絡、ロジの具体準備・当日運営等を担当する専任+αのSecretariatというのが、ドットアジア・オーガナイゼーションがこれまで10年以上担っているんですけど、うちの場合は、Secretariat自体が定義されていないので、山崎さん中心に、山崎さんがボランティアで主に作業してくれたという状態でした。

【本田】 堀田さん、すみません、ちょっと時間の兼ね合いから、ここで一旦切っていいですか。

【堀田】 はい。

【本田】 画面ちょっと戻っていただいて、この(1)から(9)までの比較をしていただきました。このところで、下にももちろん今試行というところで、ポイント同士でまとめてくださった部分、ほぼ網羅、読んでいただいた部分あるんですが、この点について何か御意見とか感想をお持ちの方、いらっしゃいますでしょうか。

手を挙げていただいても、挙手していただいても構いませんし、いきなり声で入っていただいても構いませんので。

【前村】 今本田さんがお聞きになっていることは、多分この資料の一番最後に検討ポイントとしてまとめているので、そこになっていたら一個一個質問を解いていったほうがいいかなと。

【本田】 じゃ、その下へ行ってください、画面を。

上村先生、どうぞ。

【上村】 すみません、上村です。質問があればということだったので。

45行目に書いてあることがちょっと分からなかったの、クラリフィケーションをお願いしたいんですけど。APrIGFは、Chairは選んでいたけど、今までCommitteeの責任者を示していなかったけど、21年から、違うか、国内イベントというのが我々のということですか。ChairとCommitteeと国内イベントの関係が分からなかったの。

【堀田】 Chair、Committee責任者は、APrIGFでは、この10年間ずっと定義されています。日本の中では、そういう責任関係がないという、そういう意味です。

【上村】 責任関係が不明確だったということですよ。我々は。

【堀田】 いや、責任者、定義されていないですね。うちの場合は。

【植村】 されていない。はい。

【本田】 じゃ、この明確というのは、「不」というふうに付けるということですか。

【前村】 いや、そうではなくて、「より」というのが比較なんですよ。だから、APrIGFと国内イベントと比較したら、APrIGFのほうが責任関係が明確だとおっしゃっているの。

【堀田】 ごめんなさい、そのとおりです。

【上村】 分かりました。つまらないことで失礼しました。了解です。

【本田】 でも、クリアになりました。ありがとうございました。

ほかの方、いらっしゃいますか。どんどん発言していただいたほうが、逆に。

【堀田】 質問はしていただいたほうがいいです。

【本田】 そうですね。これも堀田さんだけで考えるものでもないし、堀田さんの思考の中を開示していただいているので、ぜひこの場でライブに話をするというのが、一番この会合のメリットだと思いますので。

【上村】 すみません、上村です。じゃ、もう一ついいですか。

先ほどDrafting Committeeの話がありましたけど、APrIGFはレポートを作って、割といろんなところにそれを持っていっているというのは、魂胆もあるので、Drafting Committeeをかなり今まで充実して作っていたと思うんですね。なので、内容を修正する必要はないと思いますけど、APrIGFについて御存じない方のために、ちょっとそういう補助線が必要かなと思いました。

以上です。

【堀田】 そうですね。上村さんおっしゃったように、10ページから20ページぐらいの、なかなか中身もしっかりしたレポートをあちこちに配っていますね。

【前村】 前村ですけれども。シンセシスペーパーとして、あれは結構もうオーサーしていますよね。レポートというよりも、そういうふうなポジションペーパーみたいな感じのものだと私は思っているんですけど、それで間違いないですかね、堀田さん。

【堀田】 ちょっとそれは言い過ぎかもしれないですね。一度こういう議論がありました、こういう方向性でしたという事実レポートになっていて、ステートメントにはなっていないと思います。

【前村】 分かりました。すみません。

【本田】 ほかに御発言のある方とか、御質問、確認、御意見、何でも、手を挙げていただくと思います。

一応これは、別に対立しているわけではないですけど、堀田さんの案ということなので、私がそれにいきなり逆に言っていくのもどうかとは思いますが。

1つ思ったのは、やはりこのDraftingにしても、Fellowshipにしても、今仕組みがないわけであって、それが直ちに不要ということにはならない。今のところ暫定的にできないねという感じに私は思っています。コンプライアント委員会も、これもやはり仕組みとしては作っていく方向性で持っていくべきだし、ですから、この中で……。

どうぞ。

【堀田】 いや、おっしゃるとおりで、この右側に書いているのは、2021国内イベントのことを書いてあるので、今後どうあるべきかのことは書いていません。

【本田】 そうですね。だから、不要と書いてあると、ここは当然、ここは不要であったという過去形なんですね。

【堀田】 そういう意味です。不要であったのかなと書いています。

【本田】 もちろん、そこは意味を汲んだ上でお話ししていますが、多分、堀田さんの提案としては、APrIGFと同じものをコピーしたもの、コピーというか、ほぼ同じものが1対1で対応するのが理想型であるということですね。

【堀田】 いや、違います。

【本田】 そうではない？

【堀田】 これは事実としての比較しかしていません。

【本田】 なるほど。結果のまとめということですね。これは。

【堀田】 そうです。

【本田】 分かりました。

では、下のほうへ行っていただいて、ざざっと行っていただいて、手短かに。

【堀田】 55行目は、さっきも人数が3分の1ぐらいしかないということを書きましたけど、サイズも違うんですけど、それから、地域の広さも違うんですけど、12人とかだと少ないかなということもみんな思っていた。つまり、動く人が少なかったというのが感想の中に入っていたので、そういうふうには書きました。少ない人数に負担が集中する傾向にありましたということですね。

どんどん質問があればしていただくとして、私のほうは説明を続けていきます。

国内イベントの振り返りレポートからも課題が抽出できるので、それをしようと思いました。ソースドキュメントは、活発化チーム全体としては、なかったと思います。それから、プログラムサブチームとイベントサブチームからは、振り返りレポートが出ていました。それから、ステークホルダーエンゲージメントサブチームからは、振り返りレポートが、少なくとも文字の形では出ていなかったということで、(a)と(c)がソースということになります。

74行目以降に、それらレポートに記された組織体制上の課題、もしくは、組織体制に関連するかもしれない課題というのを抽出しました。

まず79行目ですが、個々のサブチームの責任範囲というのが定義されていない、もしくは、定義されてチャーターがあるんだけど、それが十分共有されていないということで、「考慮抜け」というのが、結果的には、実行部隊である個人プレーでのケアが必要であった。このあたりを本田さんは特によくおっしゃっているし、一番山崎さんと本田さんが動いてくれたかなと思います。

例ということで、連絡先が結果的に分からないとか、特に登壇者が入れ替わったりすると、もうよく分からないとか、それから、プレゼン資料を集めることになっていて、くれと言っているんだけど出さない人に、どうやって、誰が要求するんだとか、そんなことがありました。

それから、83行目、Committee間、サブチーム間の連携とか登壇者への連絡、ロジの具体準備とか当日運営に関心を持つSecretariatというのが存在しなかったのも、このあたりがアドホックな対応になりましたということですね。

Secretariatがいればできたかどうか、それは別の問題なんですけど、途中で落ちたものを拾うという役割の人とか、連携をさせるというような人というのがいなかったというのは、1つの大きな課題ですというのがレポートに書かれていました。

【本田】 ちょっとすみません。ここまでで一応画面として共有しているので、ほぼほぼ皆さんに文字で見えていただいているかと思います。

エンゲージメントチームのところは、やはり取りまとめができていなかったんですね。前村さん、そこについて補足していただけないでしょうか。

前村さん。いらっしゃらないですね。

じゃ、エンゲージメントのところは、堀田さん御指摘のとおり、取りまとめがなかったんですけども、私がエンゲージも入っていたので、実質のところ、こういうリストを作って、ここにエンゲージしましょうというところまでは作ったんですが、一部やったものもありますが、そのときの、例えば、どの省庁に行きましょうとか、こういう団体に行きましょうというところまでいったんですが、それが具現化するところが不完全なまま終わってしまったというのが、結論としてはそういうことです。

【前村】 すみません。一時的に場所を移らなきゃいけなかったの。

【本田】 前村さん、じゃ、お願いします。

【前村】 まず、エンゲージメントチームを取りまとめようとしていた前村なんですけれども、私としては、実はこれ、エンゲージメントチームで作業していたことというのは、この活発化チームの活動全体をエンゲージしていかなくちゃいけないよねというふうな感覚でやっていたので、イベントに対してエンゲージメントを考えていたという感覚があんまりなかったというところなんですよね。という意識でやっていたという、まずは説明をしようかなと思います。

したがってということなのか、あまり取りまとめて反省を、イベント終わりで反省をしようとはしていなくて、むしろどういうふうな組織を作っていこうかみたいなことに私自身の検討の軸が移ってしまっていて、その後だよなんて個人的には思っていましたね。

ということで、すみません、そういうふうな経緯として御説明したということです。

【本田】 どうもありがとうございます。

堀田さんがかなり用意してくださって大変ありがたいんですが、ちょっと時間の兼ね合いもあるので、もう少し下に移っていただいて、これは項番幾つまでありますかね。すみません、私も全部読み込めていなかったの。

【堀田】 180余で、今6割ぐらいいってます。

【本田】 そうですか。じゃ、あと1~2分でざっとまとめていただいてもいいですか。

【堀田】 どこまでいきましたっけね。

【本田】 じゃ、■3からお願いします。1~2分ないし2~3分で。

【堀田】 ■3。ここからが本気で考えなきゃいけない第1レイヤーのものだと思っています。

まず2022秋イベントの大きな要件というのが、レポートを作るんですか、それから、ハイブリッド開催とするんですか。これによって体制が変わると思っています。111行目に書いてあるのは、私の考えが書いてあるんですけど、10ページ、20ページというような、そんなでかいものじゃなくて、各委員会からのレポートをまとめて、ドラフトして仕上げるという程度であれば、Committee要らないのかなということです。

それから、115行目、ハイブリッドはやるんだろうか、ローカルホストを募集して、ローカルホストが組織として存在する状態にしなければいけないのかなと思っています。もちろん、そのローカルホストを、JPNICが手を挙げて、JPNICにするというのも、もちろん1つの案としてあるんですけど、それをもう少し公平にやらなければいけないのかなと思います。

体制を決める、119行目ですが、活発化チームの1つの案ですが、去年やった3つに事務局を正式に組織化するというのを、2022秋イベントTFとして作るのはいかがでしょうかという、1つの案を書いています。

*1、*2に、本田さんがおっしゃっていたようなこと、プログラムとエンゲージメント一体でいいんじゃないとか、それは考えなければいけないですね。

それから、Secretariatは正式に設置しないと、これはもうもたないなというふうに、上の課題から読みました。

146行目、これはもう、もともと人が全く少ないので、多くの人に入ってもらわなければいけない。

154行目、責任者が不在なのは非常に効率が悪いです。コンセンサスを一個一個取りながらという、コンセンサスが、また活発化チームまで上げてコンセンサスを取らなければいけなかったりとかするので、非常に効率が悪かったという状況があります。今回、決めたほうがいいなということ。

それから、(5) 組織間の連携方法ですが、委員会ごとにお互いのリエゾンを出すとか、Secretariatにリエゾンをしてもらうとかというのを、これも正式に決めたほうがいいと思います。

それから、経費、これが大きいんですけど、例えば、JPNICさんが無料で組織として請け負ってくれるんだったら、契約も要らないし、信頼ベースでお願いするということとはできるんですけど、そうではなくて、よく話に出ていましたけど、お金でもってちゃんと契約して、ちゃんとやらせるという事務局を作るんだとしたら、これは待ったなしです。本田さんがちょっと書かれていましたけど、もう少し日本モデルというか、公共からお金をもらったり、公共からリソースを出してもらったりということができればいいんじゃないという方向もあるよねということで、このあたりは早めに決めなければいけないと思います。

以上です。

【本田】 どうもありがとうございます。

私の意見も織り込んでいただいた形なので、あえて私のほうから追加というのはしないんですけども、このあたりで皆さんの御意見とかコメントなどあれば、まずお伺いしたいと思います。

今、先ほどの■3ですかね。少し戻っていただいていいですか。この辺ですね。この辺からのところで、コメントとか意見、質問等あれば。積極的に皆さんが発言していただくのは私はいいいと思います。

特にはよろしいですか。

前村さん、いかがですか。

【前村】 前村です。材料から読み出して、これが必要だという非常に精緻な提言になっているというのがとてもすばらしいなと思って、今、まだまだ読み込んでいるところです。

2021年のイベントは、良くも悪くも手探りでやっていたので、試しにやってみたらこういう問題が起こったというふうなことで、それを積極的に解決しながらイベントを作っていくというふうな意味合いで、とてもそういうふうなストレッチがきっちり効いている考え、ディスカッションペーパーになっているなというふうに思いました。

これを意識しながら組織化を作っていく、それも足早にということと言うと、すみません、今回一回休んでしまいましたが、そんな休む暇もなくやらなきゃいけないなというふうなことを思い知らされます。

以上です。

【本田】 ありがとうございます。

お名前、こちらから別に指名するわけではないですが、よく発言してくださる加藤さんとか、イツミ先生とか、何かコメントあれば。特になければ結構です。

少し下に持って行っていただいていいですか。これは私の意見も織り込んでいるので、政府のいうところですね。政府の積極的な関与というところなんです。やはり……。

加藤さん、どうぞ、ぜひ何か。

【加藤】 名前を言っていたので、何か言わないといけないかなということで。

ちょうど今見せていただいた6番の経費の扱いの話ですね。これ、次のアジェンダ項目で組織の話もあるので、その経費どうするかとか、誰が事務局的なことをやるかというのは、何となく全体として話をしたほうがいいのかなというふうに思っています。

【本田】 そうですね。組織化のところにもつながると思います。ここでは定款を持つ法人が請け負ってくれるとありがたいと書いてありますが、そんなうまい話があるのかどうかというところですね。

【加藤】 そうですね。それは理想で。だけど、経費がきちっと分かると、これとこれができるって、ほかのことが決まってくるので、それがどこまでできるかという議論と抱き合わせながら、そろそろやっていかないと、結論が出ないままで終わっちゃうのかなという気もちょっとします。

【本田】　　そうですね。ほかの方からも御指摘が何度もあるところですよ。お金がというところで堂々めぐりになるのは良くないし、お金がないからできないということでもないの、そのところのうまい折衷案ですね。

【加藤】　　はい。

【堀田】　　堀田です。

【本田】　　どうぞ。

【堀田】　　加藤さんとか本田さんおっしゃるとおりなんですけど、実は、事務局の作業というのは、今既に2022秋イベント用に発生し始めるので、例えば、3か月、4か月待ったら決まりますでは遅いのではないかというので、2022秋イベントの事務局経費については、待たないでというふうに書きました。

【本田】　　御指摘のとおりです。

私、あんまり名指しにしたいはないんですが、飯田さん、私のこういう、まず公共から火をつけてほしいというところの意見とか、私なりの考えを持っているんですが、そういったところについては、公式な立場というより個人的な立場なのかもしれませんが、何か御発言いただけるものってありますか。

【飯田】　　そうですね。我々もできることに限りがあるので、一応、政府が一番先頭に立ったり、一番最初に何か手を着けるのかいいのかわからない、いろいろ見方はあると思いますが。それはさておき、できるだけ皆さんにやりやすい環境ができるように、できることはやっているつもりではあるんですけども、特にお金の話になると、政府としてやるものにお金を用意することは、何とか予算を要求してやっていくことはできるんですが、直接皆さんの活動費を用意するというのは難しいもので、なかなかその辺は我々としてもどうしたらいいかなというところではあります。

あとは、それ以外のところでは、我々も、先頭に立ってというよりは、マルチステークホルダーと一緒に考えていきたいと思っていますので、至らないことが多いとは思いますが、これからもう少し皆さんをリードできるような、あるいは、後ろから支えられるような、これはどっちじゃなければいけないということはないと思うので、もうちょっとこうしてくれたほうがやりやすいということがあれば、頑張りたいとは思いますが。当然意識はあるんですけど、どういうのが一番いいかというところで悩ましいところもあるので、ぜひ皆さんからも御提言やアドバイスいただければ、可能な限りは考慮していきたいと思っています。

すみません、あまりはっきりしたお答えにはなりませんけど。

【本田】　　ありがとうございます。

もちろん、今のこの場で結論を出すことでも、何か予算を作ってくださいというわけでもないんですが、やはり皆さんがお見合いをしている状態というのはよくないと思います。

ごめんなさい。私の意見を先に言ってしまう。これはあくまでIGFをターゲットとしていますから、2023をターゲットとしていますから、その状況に向けての、言うまでもありません、情勢を、気運を高めていくということになりますので、いわば事前広報費用というか、そういう部分を我々も関

与して作り出そうとしているわけなので、そのあたりで、やはり理由付けというのほうまいことやっていただけたところもあるのではないかとというふうに邪推をしているんですが。

【飯田】 そういう意味では、今回の調査なんかもそうなんですけれども、皆さんのお力を借りて、できるところに少しでも政府のお金でそれをやっていただけるような形で何か提供できないかなというのは、また年度が変わってから、次のことを考えたいと思っていますし、予算は何でも使えるというわけではないので、いろいろ制約はあるんですが、また額も限りはあるんですが、これはこれで、また次の年度は、23年度に向けてのいろんな活動をやっていただけるようなあれを少しでも提供したいと思っていますので、また御相談させていただきたいとは思っています。

【本田】 ありがとうございます。引き続き、よろしく願いいたします。

では、高松さんからチャットも入っていますので、元のアジェンダに戻していただけますか。山崎さん、画面をアジェンダに戻してください。

カンダンポイントの1から6は、本日の結論を出さないと秋イベントも進まない。そういうことでよろしかったでしょうか。別にここで全部結論を出すというふうに私は認識はないんですが、そういうことでいいんでしょうか。

堀田さん、どうぞ。

【堀田】 堀田です。幾つかは出さないとだめだと思います。少なくともプログラム委員会は立ち上がらなきゃいけないので、プログラム委員会作りますということは誰かが決めなきゃいけないくて、プログラム委員会のマニフェストは大体この範囲というのも決まっていなくて、手を挙げる人が今2人しかいないんですけど、その2人のままで終わってしまうという状態なので、それは決めなきゃいけない。それを3週間後でもいいですかというと、多分だめだと思います。

【本田】 プログラム委員会の進め方のドキュメントを出していただけますか。

これもたくさんありますね。かいつまんで説明していただけないですか、堀田さん。なるべく手短かにお願いできますか。かいつまんで。

【堀田】 今日そんなに忙しいんですけど。

【本田】 いや、私が別に焦っているだけかもしれないですけど、いつも時間ぎりぎりになっちゃうので、効率よく進められればと思っています。

【堀田】 じゃ、2.2のところを見せてもらえますか。

これ、去年のタスクをそのまま大体書いてみたんですけど、T4というのは、去年やっていなかったけど、入れたほうがいいのかということ、各セッションが、人気はあったんだけど、割にだらだらと進んじゃって、ディスカッションの時間がほとんどないセッションばかりになったりとか、最後のほうまで登壇者が決まらないセッションが多かったりとか、そういうことがあったので、個別セッションの設計から支援するというのも、プログラム委員会の仕事に加えなければいけないなというふうに考えました。だから、プログラム委員の仕事は、評価だけではなくて、そこまでコミットしなきゃいけないなというのが、今回追加してみたところなんです。

それから、T1に入っただいて、去年は、極端に言うと、公募セッションオンリーだったんですけど、今年はゲストスピーチを1~2個、それから、活発化チームが企画したセッションを1~2個はやるうねというふうに、前回の活発化チームのほうで議論がそっちの方向になっているので、それをどうするかというのも、プログラム委員会の大きな仕事、これは割に大変だと思うんですけど、になるというふうに思っています。

というところですかね。大きな、去年を知っている方が多いと思うので、去年としたらそういうところかなと思います。

以上です。

【本田】 ありがとうございました。

この今のお話の部分で、コメントとか疑問、質問、御提案などおありの方、御発言をお願いします。

その前に、前村さん、アジェンダのアーチはスキップでいいんですか。資料がまだそろわなかったので、スキップということでもいいんでしょうか。

【前村】 すみません。チャットに書き込もうとしていました。

準備ができていないというのが、スキップさせてくださいとお願いした理由です。そんなことを言われてられないんだよ、今日決められることは決めていこうぜということには、決めていかなきゃいけないかなと思いますが。

【本田】 じゃ、少し口頭で説明していただければという理解でよろしいですね。

【前村】 いや、すみません、そういう意味で言うと、次、どういうふうな形の法人なり組織を考えていきましょうかねというプロポーザルをしなきゃいけなかったはずなんで、それはないです。

【本田】 まだそれは整っていない。

【前村】 前回の資料をもう一遍眺めるしか。ごめんなさい。

【本田】 では、それを出していただいて、コメントを少し皆さんいただくという、そういう10分ぐらいの時間にしましょうか。それともカットしますか。

【前村】 カットしたほうがいいと思いますね。

【本田】 カットしてほしい。分かりました。

【前村】 それよりも、2022イベントに向けたら、もうこんなことだよねという、さっきの堀田さんのディスカッションペーパーがあったじゃないですか。それを見ながら、どれくらいまで決めていかないといけないよねとか、2022イベントをやるという観点からのネクストステップがあれば、それに合わせたペースでやるべきだと思います。

【本田】 分かりました。

じゃ、高松さんからの御質問にあった件で、項番8はスキップをお願いします。

じゃ、もう一度戻っていただいて、先ほどのプログラム委員会のところですかね。今プログラム委員の話をしていたので、山崎さん、画面をお願いします。もう少し、概要のところまで持って行っていただいて。

先に質問なんですが、堀田さん、今2名ということですが、応募は。

【堀田】 上村、本田の2名です。

【本田】 ということですね。

【堀田】 はい。

【本田】 前は、たしか私の記憶では、プログラム委員会は、前村さんが、こんな方どうですか、いかがですかとリクルートしていたように記憶しているんですが。前村さん、いかがでしたっけ。

【前村】 ミーティングの中で、ミーティングに出られている方で、いろんなステークホルダーから、あなたどうですか、あなたどうですかと言って、大体集めましたね。

【本田】 前村さん、これ、また今回もそれにするというのはよくないということですか。

【前村】 いやいや。僕が指名者じゃないですから。すみません。

【本田】 いやいや。前はそうしたということ。

【前村】 そうですね。手を挙げていただく方をお願いしていましたが。

【本田】 やはりマルチステークホルダーで、皆さん、それぞれで別々のセクターの方が入っていただくのがやはり理想です。まずそのメンバー決めじゃないでしょうか。いかがでしょうか。

上村先生、ありがとうございます。積極的に。どうぞ。

【上村】 上村です。2名しかいないというのをさっき聞いて、ちょっとあれっと思っちゃったんですけど。

まず委員のことについては、私は2回ぐらいは連続してするほうがいいかなと思っていたので、前回お受けしたときから、次もきっとやるだろうなというイメージでいました。ですから、前回なさった方が全員今日いらっしゃるわけではありませんけど、残ってというか、もう一度やっていただける方がいるなら、お願いしたいなと思っています。それぐらいかな。

あと、もう一つ、前回のプログラム委員を決めたときには、割と何か……。でも、前村さんがかなりお願いベースで振っていたような感じがあるので、自然に集まったものではないという理解です。

それから、ちょっとお願いなんですけど、初めに今日決めなければならないことを確認した上で、決めなければいけないことだけさっさと決めて、それ以外のことを片づけたほうがいいような気がするんですね。

それで、少なくとも立ち上げは今日きっと必要なんですけど、それ以外に、堀田ペーパーの中に、この場でコンセンサスを取らなければならないこともあるような気がするの、その辺を仕切っていただければと思います。よろしくをお願いします。

【本田】 失礼いたしました。御提案ありがとうございます。

じゃ、まず何を決めなければいけないのかを、まずそれを決めましょうか。

プログラム委員会を立ち上げるということ、そして、2人は応募したので、その2人からまずスタートしていくということ。

あと、堀田さん、いかがですか。もう一度決めないといけないこと。堀田さんに頼ってしまいますが。

【堀田】 プログラム委員会については、少なくとも存在するよねということは決めていただいたほうがいいと思います。

プログラム委員会のチャーターの範囲については、今日決まらないのであれば、またもうちょっと経ってからでもいいのかもしれないですね。

つまり、兄弟の委員会として、どういう委員会があるとか、エンゲージメントをプログラム委員会に入れちゃうのかというのは、例えば、そういうのは後で決めましょうというのでもいいかもしれないです。

【本田】 そうですね。

【堀田】 はい。

【本田】 まずメンバー、立ち上げるということ自体を決める。

【堀田】 だから、去年の人たちには基本的に入ってもらおうということをこの場で決めて、去年の人たちに、そういうふうと思うんですけど、いいすよねという感じで聞くというのは、それは活発化チームのほうでそれでいいんじゃないというのであれば、それはやってみるというのは価値があることだと思います。

ただし、さっき申し上げたように、去年は評価会議にしか出ていないんですけど、今年は担当のセッションを持って、そのセッションがちゃんとしたものになるように責任を持つという大きな仕事加わるということはちゃんと言った上で、今年もやってねと言わなきゃだめかなというふうに思います。

プログラム委員会に関しては、それぐらい決まればいいかなと思いますね。

あと、プログラム委員会以外のことに対しては、1つ前の資料の中の最後のほうの検討項目にあったのを一つ一つつぶしていくという感じで。

【本田】 山崎さん、そこを出していただけますか。堀田ペーパー。

まとめてくださっていたんですね。失礼しました。私もそこをうっかりしていたので、ありがとうございます。

【堀田】 ここですね。例えばと書いているのは、ほかにも大きいのがあって、抜けているかもしれないんですけど、少なくともこの2つはすぐに分かることなので、決めれば大分仕事の多寡が決まるというふうに思います。

まず、10ページ、20ページもののレポート作りますかって、これはもう私の意見はノーなんですけど、ただ、例えば、グローバルIGFに提供するようなレポートぐらいは欲しいよな。プラス、国内に、こんなことやりました、こんな結果でしたぐらいのレポートは欲しいよなというレベルのものは作る

という感じでいかがですかと書いています。110行目。これは今日決めたほうが、どれだけ頑張らなきゃいけないか感が分かるので、いいのかなと思います。

【本田】 ありがとうございます。

1と2と、あと幾つありますか、この下は。

【堀田】 6までですね。

【本田】 はい。じゃ、私が読みますね。

体制上の各組織に多くの人に入ってもらおう。20名って、結構野心的な数字ですね。

責任者を決める。

組織間の連携方法を決める。お互いの情報共有。事務局員は全委員会に参加する。なるほど。

で、経費ですね。分かりました。

じゃ、堀田さん、先に、この6つ出していただいたうちのほうからやりましょうか。プログラム委員会のほうは一旦置いて。

【堀田】 それがいいと思います。

【本田】 じゃ、1、2、3を出してください。

じゃ、まずレポートについて。それは皆さんの御意見を募りたいと思います。

堀田さんは、そこまで必要ないじゃないか、でも、グローバルに出すものはあったほうがいいのかもねというような、そんな感じにおっしゃっていましたが。

御意見とか御質問、何かあれば、積極的に御発言いただきたいと思います。

【前村】 前村ですけれども。これ、NRIとしてグローバルIGFに提出するものだという事だと思ふんですね。それに和文もあるということなんですけれども。それがそんなに長大なものである必要もそんなにないのかなと思っているんですけど、違いますかね。

【堀田】 誰への質問でしたっけ。私だとすると、そんな長大なものである必要はないと思います。

NRIに出すのと、さっき申し上げたように、日本の人たち、ステークホルダーたちに対して、こんな会議をやりましたみたいなことは出したほうがいいです。

【前村】 はい。

【堀田】 それがA4、2~3枚とか、そんなものかなというのが私の感覚です。

【前村】 はい。それを作成するほうが私はいいと思いますね。あんまりごてごてしたものではなくて、完結に、NRIとしてのレポートにもなるようなものは作ったほうがいいと思います。

【本田】 本田です。私も同じ意見です。やはりこの前の反省点のところで幾つかあったんですが、ペーパーがないとか、報告がなかったというところを見ますと、やはり過去から次の未来への引き継ぎというものが後から欠けてくるということになりますので、後から欲しかったよねと言っても、過去は取り戻せませんので、過去に戻って作ることはできませんので、やはりレポートは、別に20枚と

か30万とか、そんなに卒論レベルのことをやる必要はないかもしれないんですが、少なくともアブストラクトとして、各プログラムにつきA4・1枚とか、それぐらいの程度のものはやはり必要だろうし、当然、日本語で作るのであれば、英語も必要だと私は思います。

【上村】 上村ですが、よろしいでしょうか。

【本田】 どうぞ。

【上村】 110行目から113行目の4行を見ると、レポートに2種類あるような気がするんですけど。

1つは、人に見せる会議の報告的なレポートだと思うんですね。こういう論点についてこういう意見があったみたいなやつ。それから、もう一つは、各委員会のビジネルレポートみたいなものだと思うんです。

それで、どちらが必要とは思いますが、ここではどちらの話をすべきなのかということと、あと、どちらの話をするのかという意味では、カンファレンスレポートのほうが優先的なのではないかという気がします。

ビジネルレポートは、ぶっちゃけ、メールのやり取りとかでもいいような、よくないかもしれませんが、最悪そういうこともあり得ると思うので、そのレポートのイメージを、どんな話をすべきなのか教えてください。

【本田】 上村さん、ビジネルレポートとおっしゃっているのは、いわゆる引き継ぎ文書みたいなところですよ。

【上村】 はい、そうですね。先ほどプログラム委員会のレポートが映されましたけど、あんなイメージです。

【本田】 ありがとうございます。

【堀田】 堀田です。上村さん、おっしゃった、ここで正式レポートと書いているのは、カンファレンスがどうだったかというレポートで、内部のことを書いたものではないです。ここで意味したいのは。

内部で書いたものというのは、去年も結局作っていたんですね。それは、それをちゃんと作るということを、今年も引き継げばいいかなと思っています。

【上村】 そうすると、会議のレポートは、別に各委員会からのレポートをまとめて作る必要はないということですよ。そういうふうに思っていていいですか。

【堀田】 そうですね。

【上村】 それでもいいかもしれませんが、会議のことが要約されていればいいということですよ。

【堀田】 そうです。

【上村】 分かりました。ありがとうございます。

そういう意味では、私も会議のレポートは、誰が作るかというのは先送りするとして、必要に一票です。

【本田】 ありがとうございます。

ほかの方、別の意見とか反対、もしくはクエスチョンという方、いらっしゃいましたら、ぜひ御発言お願いいたします。チャットでももちろん可能ですので、ぜひ関与していただければ。

今のところ一旦ここで切るとして、ハイブリッド開催とするというところですね。ここはいかがでしょうか。本会場を東京とし、本会場及びローカルハブの要件を決めて本会場及び……。ちょっとよく分からないですね、これ。本会場は東京で、地方会場もあるということですか、これは。堀田さん、この提案では。

【堀田】 ローカルハブがある。東京プラスローカルハブたち。

【本田】 例えば、高松とか、四国とか、北海道、札幌とか、何か所かやって、そして、参加したい発言者は、もうそこから自由にできるという感じでいいんですか。

【堀田】 はい。

【本田】 すごいおもしろい提案ですね。で、そのそれぞれのアクセスポイントにコーディネーターがいて、一応ローカルハンドリングとかをやってくれる。やってくれるという言い方はちょっと語弊がありますが、やってもらう。

【堀田】 そうなんです。

【本田】 山崎さん、どうぞ。

【山崎】 これは理想ですし、2023年を考えたら、あるといいと思うんですけども、今年これをやるのは現実的じゃないというふうに、ちょっと狭い視野からものを言っているかもしれませんが、今までオンラインのみでできていたことを考えたら、こちらにリソースを割くと、人だけじゃなくて、お金も確実にかかってきますので、私はあまりハイブリッドにこだわらなくてよいのではないかと思います。

以上です。

【本田】 ありがとうございます。

上村先生から、もう報告会の際に九州サテライトを設けたことがありましたというコメントが入っております。

ちなみに、お伺いしますが、今参加されている方で、東京以外から参加されているという方はいらっしゃるのでしょうか。もしいらっしゃいましたら、ぜひ何かコメントで発言していただければと思います。

やはりこういうことって、それこそ比較ではないんですが、ジャノムもそうなんですけど、東京中心になってしまって、東京か、東京でないそれ以外かみたいな、二軸みたいなふうになってしまう、もしくは、地方が取り残されていくということも間々あると思うんですね。それなので、あえてジャノムなんかは各地域に持ち回りでやっている、ネットワークオペレーターズグループということなんで

すけれども。そうすると、地方活性化とか、それぞれの地方のインターネットサービスプロバイダー、そういったものも交えながら、よりインターネット運営に対しての興味・関心も育てていく、そんなようなこととして挙行しているということ。

ありがとうございます。投票していただいて、ありがとうございます。

高松さんから、御参考までに、ほかの国では以下ですということですね。それぞれの地域でありますということですね。ありがとうございます。

じゃ、後ほどこれはアジェンダに含めていただいて、レポートにさせていただきたいと思います。

ハイブリッド開催ということについては、どうでしょうか。これ、投票は取れますか。今地方のほうをやっていたので、ちょうどいいなと思います。ハイブリッド開催とすること自体については。

東京が89%ですね。東京以外からが11%。1割の方はいらっしゃるということで、やはり地方も見逃すわけにはいかないと思います。九州とか、北海道とか、東北とか、より東京から離れた地域について、やはりより理想的ではないかなと、私も思います。

【堀田】 堀田です。

【本田】 どうぞ。

【堀田】 理想的です。山崎さんがおっしゃったのは、多分JPNICがやるとしたらということですよ。きつとね。

【山崎】 そうですね。自分たちがやるに当たって、現実的かということがどうしても主になってきてしまうので。

【堀田】 やっぱりそうなりますよね。

【山崎】 逆に、どなたがやってくれるのであれば、それには……。

【堀田】 誰が手挙げるんだという。

いや、手を挙げられなかったからオンラインにしましたというのは、それはある意味しょうがない選択だとは思いますが、最初からオンラインしかやりませんというふうに活発化チームが決めるというのはどうなんだろうねというのが、私が書いた意図です。

【本田】 そうですね。堀田さんの御指摘、もっともだと思います。初めから、言い方はあれですが、頭打ちでやってしまうと、その狭い範囲の中のことしかできませんので、やはり地方に対面というか、ローカルハブを置くことによって、そこに足がかりができますし、例えば、LINE福岡とかありますけれども、例えば、福島にある会社もありますし、そういったところで、よりインターネットがバナンスに協力的な、もしくは、そういった技術コミュニティとしても協力的な企業にアプローチして行って、ちょっと会場を貸してくれないとか、ちょっと手伝ってくださいというようなことをお願いしていくというところから、そこもやはりエンゲージになってくると思うので、やらないということにすることは容易ですが、オンラインのみということにするのは非常に容易ですが、今の感染の状況とか、そういったものもにらみながら、そこは決めていけるのではないかなと私は思っています。

何かこのことについて、さらにコメントとか、意思表示とか、おありの方がいらっしゃったらと思います。

ちょっとそこのハイブリッド開催とか、これは今日決めないといけないんですかね。今すぐ決めないといけない？

【堀田】 今すぐ決めなくていいと思います。

【本田】 ですよ。

【堀田】 ただ、要件書を作ったりしなきゃいけないとすると、そんなに遅くはできないので、5月、6月には作り始めなければいけないですね。そのためのCommitteeが要るんだったら、Committeeをつくるというふうにしなきゃいけないと思います。

【本田】 そうですね。なので、今すぐにとということでもないんですが。

ちょっと山崎さん、出していただけませんか。ハイブリッド開催、どれぐらい皆さんが賛成されているのかどうか、ちょっと見てみたいと思います。

その間に、レポートについてですが、これはまず作るという方向性でしょうか、それとも、作らないという方向性でしょうか。見送ると言うのであればですけど、なるべく、レベル感は別として、やるかやらないかという部分では、やる方向性で、ただ、あんまりすごい長大なものとか、正式というか、それにこだわって形式、こだわってすごい長いもの、ボリュームをやらなくてもいいというようなふうに捉えたんですけど、そのあたり、堀田さん、いかがですか。

【堀田】 レポートの話は先ほど終わったかと思ったんですけど。

【本田】 ごめんなさい。一回私、狂っちゃったかもしれないけど。

【堀田】 2~3ページものをちゃんと作りましょうねというところで。

【本田】 分かりました。失礼しました。

ハイブリッドについて、今、その間に投票を用意していただいたんで、それで、ハイブリッドで開催すべき、オンラインのみで開催すべき、現地開催のみとすべき。現地開催のみとすべきというのは、要は、物理だけです。オンラインはやらないよという、そういう選択肢があると思います。

皆さん、投票を入れていただいて、その結果をちょっと確認してから、一応方向性としては出した上で、次の項番に行ってみたいと思います。

では、飯田さん、ありがとうございます。その投票を入れていただいている間に、体制決めというところですが、これ、どうでしょうか。これは今日決めないといけないところってありますか。プログラム委員会以外のところ。

【堀田】 さっき申し上げたように、プログラム委員会が決まれば、その周りは少し後でもいいと思います。

【本田】 分かりました。じゃ、体制も決めるというところ。

あれ、私のほうで投票結果が出てこないな。山崎さん、投票結果は見られますか。

ありがとうございます。ハイブリッドが60%、オンラインのみが40%ということですね。じゃ、ちょっとそれで記録しておいていただいて、これは一旦先送りというか。

プログラム委員会の話に戻りましたので、プログラム委員会のペーパーを出していただけますか。残り30分ほどになってきましたので、プログラム委員のところに集中して話をさせていただきたいと思います。山崎さん、出ますでしょうか。ありがとうございます。

募集はしたわけですが、ここに書いてあるように、人数不足の場合、不均衡がありそうであれば、個別声掛けということで、先ほどのお話の中で、過去に、上村先生からも言われたように、連続性というところも考慮して、フォーカスが変わることを前提として、要するに、去年は単純に審査だけをやりましたが、この年はハンドリングの部分まで、プログラムの作り込みのところまでやっていただくという方向性を持った中で、昨年担当していただいたプログラム委員だった方にもお声掛けして、仲間に入れていくと。そういうような方向で受け取ったんですが、いかがでしょうか。そのことについて、その方向でよろしいでしょうかということ、そのことについて御意見あれば、どなたか。

じゃ、去年のプログラム委員をされた方というのは、逆に今ここにいらっしゃいますか。

【上村】 ちょっと、その先に行く前に、幾つかやっぱり原則のチェックが必要だと思うんですけど。

やっぱり委員にステークホルダーバランスというのが、バランスの取れたプログラム委員会を設置するんですか。とか、今日の会議が終わった後どうなるのかというあたりが何となく気になるんですけど。ちょっとその辺どうなるかを意識しつつ、私のイメージは、先ほど2回ぐらいやるべきだと思ったので、1回手を挙げましたと言いましたが、私はそう思っているというだけで、そう思っていなかった方もいらっしゃるでしょうし、話が違うと思う方もいると思うので、私がするとしたら、私はもう一遍やるんですけど、前回やった皆さん、もう一遍やりませんかと言うぐらいしかできないような気がするんですよ。

誰が声を掛けるかというのも、これまた結構微妙な問題で、例えば、山崎さんをお願いしてしまうこともできないと思うので、どうやって声を掛けるのかは、やや慎重にしたほうが。

【本田】 じゃ、ぜひ上村さんをお願いしたいなと個人的には思います。

【上村】 であるならば、そういう話もこの場でちょっとはっきりしたほうが良いと思うんですね。

それから、今2人いるということですけど、じゃ、2人でプログラム委員会できましたということでは私はないと思うので、そうされても困るので。

【本田】 そのとおりです。

【上村】 とはいえ、じゃ、その間その2人は何ができるのかとか、考え出すといろいろ切りがないんですけど。なので、できるだけかっちり決められることは決めておいたほうが良いかなと思います。

【本田】 そうですね。

私なりの考えを先に話させていただきます。山崎さんにとか、何さんにというところを一番心配しているところは、やはり属人化だと思います。私も何度もMLでも提案していますが、人というのはできる能力も限られていますし、当然、皆さん本業も持っていらっしゃるの、その中でお時間をお分かちいただいて、2時間今日もセットしていただいて、部分的もしくは全部参加していただいているので、その時間という一番貴重なリソースを無駄にしたいとは思っていません。

その中で、あまりに長大なもの、オーバースペックなものを要求したり、もしくは、あれもやりたいね、これもやりたいねと言って盛り込み過ぎますと、先ほど言ったことと相反しますけれども、オーバーで、これ以上持てないねと、オーバーフローしてしまう。もしくは、初めからそんなに難しいことはできないと思って、敬遠されてしまうという気持ちはあると思うんですね。

ですので、これはあくまでボランティアですので。ボランティアというのは、自分から手を挙げるという、まさに英語の意味のボランティア、志願兵とかというふうにも言われる部分なんですけれども。なので、皆さんがやりやすい形でマイクロタスクして行って、例えば、本当にちょっとリストを作るだけとか、何かのドキュメントをちょっと手直しするだけって、それでも構いませんし、逆に、手は動かさないけど、口だけ足してくださいという、お知恵拝借しますというのも全然ありだと思うので。私はそう思っています。

【上村】 異論ありません。了解しました。よろしく願います。

【本田】 前村さん、何かありますか。

【前村】 今のところ特にはないです。ごめんなさい。ちょっと物音を立ててしまったかもしれないですけど。

【本田】 いえいえ、大丈夫です。

では、お声掛けについては、やり方は上村さんとまた相談しながらという感じでよろしいですかね、上村さん。

【上村】 私がというよりは、この場がそれでよいかという感じですけど。

【本田】 はい。ほかの皆さん、御意見ありませんか。

そもそもプログラム委員の決め方ですね。募集はしたというところで、これは堀田さんが募集をしていただきまして、応募したのが上村先生と私ということ。で、そこに補充というか、さらに追加でお声掛けをしていくという、そのところにどう頂けるかというところですね。

ポーリングの結果は、大体半分という意見ですね。ありがとうございます。

ごめんなさい。これ、ハイブリッドですね。ありがとうございます。

【山崎】 半分というのは、全参加者のうち半分がポーリングに参加したというだけで、私の記憶だと、6割ハイブリッド、4割オンラインのみ、現地のみはゼロだったと思います。

【本田】 ありがとうございます。ハイブリッドのところですね。失礼しました。

【山崎】 その前は、東京か地方かというのは、9割東京で、1割地方だったと思います。

【本田】 ありがとうございます。

これも声掛けしますかというプログラム委員のところもポーリングしたほうがいいのかな。というふうなほうが、皆さんが一斉にしゃべるわけにもいかないし、それでいいんでしょうかね。

じゃ、ちょっとそれでやってみましょうか、山崎さん。プログラム委員会は、2名に追加して、プログラム委員会からの声掛け。今実質2人ですけれども、この2人から声掛けして、リクルートしていくということで今回はいいでしょうかというところ。

堀田さん、ちょっと待っている間に何かコメントあれば。

【堀田】 よいと思います。

【本田】 ありがとうございます。

この緑のマークがついているのは、私のほうで見ているんだけど、投票して下さった方がついてるんですかね、山崎さん。

ちょっと結果が出てきませんので、一旦それで、この投票を待っている間に、次のところに移りたいと思います。

堀田さん、次は、これは概要確定と書いてありますが。

【堀田】 2以降のところに概要は書いてあって。

【本田】 ちょっとごめんなさいね。このペーパーは、そもそもが声掛けをするかで。ごめんなさい、私が結果を言っちゃった。私はするということで。それでは、入れておいていただいて。

2項のところを開いていただけますか、山崎さん。

【山崎】 ごめんなさい、2以降というのの意味がよく分からないんですが。

【本田】 2.プログラム委員会の概要というところだと思います。フォントをもう少し小さくしていただけませんかね。もしくは、ブラウザを。

プログラム委員会のミッション、主要タスク。これはもうこれでいいですかというところで、いいんですよ、堀田さん、それは。何か、これ、議論することは。

【堀田】 というふうに聞こうとしたんですが、先ほどの話で、プログラム委員会のミッションをもっと広げようという可能性もある、それについては、今後活発化チームで話すというふうに決めたので、ここに書いてあるプログラム委員会の概要を合意することは今日はできないという結論になると思います。

【本田】 なるほど。そういうことですね。分かりました。じゃ、これはいいということですね。

プログラム委員会の声掛けをするかのアンケート、今結果が出ました。86%で、するということでしたので、これは、じゃ、先ほど御提案したように、上村先生と私が、2人まず委員になりましたので、その2人から声掛けをさせていただく、そういう形にさせていただければと思います。お声掛けさせていただいた中で、また御協力いただく、もしくは、内容についても、期間とかの部分についても御相談させていただければなと思っております。

上村先生、よろしいでしょうか。

【上村】 はい、承知しました。

【本田】 ありがとうございます。

じゃ、堀田さん、この2以降は、今日は決められないということですね。

【堀田】 はい。

【本田】 T2も全部そうですね。

【堀田】 はい。2以降は今後チューンしていくということになりました。

【本田】 了解しました。ありがとうございます。

じゃ、アジェンダに戻っていただきましょう。

【上村】 すみません。決められないのであれば、決められないで、この点について少し意見を交わしたほうがいいんじゃないですか。そうすると、全くすべて次回になっちゃいますけど。

ちなみに、私はあんまりスコープを広げるのは反対で、反対というか、予期せぬことで、だったら名乗り出なかったかもしれないなど今思い始めているところなんですね。特にエンゲージメントを入れるということの意味にもよるんですけど。その辺どうでしょう。時間がないのであればしょうがないんですけど。全く次回に持ち越しちゃうと、さらに一回遅れることにはなりますが、どうでしょう。

【本田】 ありがとうございます。

じゃ、私のペーパーのほうに戻っていただいていいですか。もう一つありましたよね。

【山崎】 すみません。私のというのの意味が分からないんですが。

【本田】 山崎さんが本田案みたいなのを作っていらっしゃいせんでした？ 本田案、堀田案。

【山崎】 これですか。

【本田】 それです。

私が、このエンゲージというところに入れたのは、今まではエンゲージを分けていました。前回ですね。エンゲージのほうは、いろいろなインターネットIGF関連と思われる組織とか、そういうところのお声掛けというところも入っていましたと。ただ、私が思うエンゲージというのは、組織もそうですけれども、やはりプログラムの中へコーディネートと同時に引き込んでくるという部分もエンゲージではないかと私は考えたということですね。

だから、別に前回やろうとしたエンゲージメントを丸々プログラム委員会が持つというような意味合いで言ったのではないんですね。あくまでプログラム委員会がプログラムを作ったり、もしくは、実際にこれをプログラムとして公表していく中で、ぜひ皆さん御参加くださいとか、もしくは、聴衆として御出席くださいということもそうだし、プログラム自体にも登壇していただける方があれば、それはエンゲージしていくという意味なので、IGFの活動全体をエンゲージするというふうな機能を僕はプログラム委員会に求めているわけではないということです。ちょっと伝わりますでしょうか、上村先生。

【上村】　　そういうことであれば、何となく分かりました。そうすると、エンゲージメント委員会をプログラム委員会の中に設けるわけではなくて、エンゲージメント委員会はエンゲージメントで残るんですか。そういうイメージなんですか。

【本田】　　私の意見では、今回については、エンゲージメント委員会は設けられないのではないかと考えています。設けたいという人がいれば、もちろん設けたほうが良いと思います。

私の意見では、プログラム委員会が2人しかまず応募がない以上、ここでプログラム委員をさらに、例えば2名なり4名なり増やすとして、じゃ、残りの方でどれほどの方がエンゲージメントをやりたいと言ってくれるかどうかは分からないんですけど、無理にできないものを作って、それで、さあやってくださいというのも変な話だし、ボランティアの中から——ボランティアというのは、自分から名乗り出てくださる中から出るのが理想ではないかなと私は思います。

前村さん、いかがですか。

【前村】　　おっしゃるとおりだと思いますけどね。

エンゲージメントという意味合いで言うと、去年の会合のあたりでやっていたエンゲージメントという言葉が、同じ言葉を使っているけど、いろんな解釈があったんじゃないのかなと思いますね。

プロジェクトに対して呼びかけを行うというエンゲージメントであれば、それはそれで、やれば良いというのか、どこに誰が声掛けをする。声掛けをするといっても、アナウンスを送るようにするとかという仕組みを作れば良いんじゃないのかなと思いますので。

その意味で言うと、プログラム委員会の中のエンゲージメントという意味合いが、ちょっと僕は分からないんですよ。本田さん、そこは助けていただきたいのと。

【本田】　　エンゲージメントと言うから分かりにくくなっちゃうのかもしれないんだけど、要は、エンゲージメントの機能をここに入れてくるというだけで、別に、堀田案のほうに書いてありますけど……これは分割しているのか。プログラム委員会とエンゲージメントの。別プログラム委員会のサブで何かエンゲージがついてくるとか、そういう意味でも、大きなアクションとしてあるとか、そういう意味でもないです。私の言いたいことは。

【前村】　　多分、間違っていたら違うと言ってほしいんですけど。堀田案のところのプログラム委員会、エンゲージメント委員会は、プログラム委員会は中身をこしらえる、エンゲージメント委員会は広報をする、会合の広報をするという感じだろうなと思って。

【堀田】　　イエス。

【前村】　　そうですね。

本田さんのほうは、プログラムを作ったら、そのプログラムのおもしろさを伝えるようなエンゲージメントというのが必要なんだろうなという感じに見える。

【本田】　　まあ、そう言われれば、そうかもしれない。

要は、何が言いたいかという、今やっているこの会合があるわけじゃないですか今15回目。でも、ここに出られている方全員が、プログラム作りとか、もしくは、事前会合と呼んでいますが、これを作り上げていくことに御協力いただけたらとも限らないじゃないですか。それは能力とカリソースの兼

ね合いでね。なので、プログラム委員会と言っていますが、プログラムを作ってオペレーションするところまで全部やる委員会がいいんじゃないですかというのが私の考えなんですよ。

【前村】 ああ。

【本田】 だから、その中でやればいいわけだから、プログラムの中身のことは。ここでプログラム委員会の中身のことをやる必要はないと私は思います。もっと拾い話をここで話して、組織論もやりたいし、今どうなんだと、ロシアこうだねというような話も、今回はもう時間がないのでやりませんけれど、皆さんがここに集まっている場というのは、そういうふうに使ったほうが僕はいいのではないかという、そういう意味です。

なので、エンゲージメントの機能が云々というのは、あんまりそこは大きなところではないです。私の頭の中では。

【前村】 すみません。プログラム委員会って、2022年秋イベントのプログラム委員会だと思っていましたけど、違います？

【本田】 2022年秋。今年ですよ。そうです。

【前村】 今年のイベントのプログラムを考える委員会だ。

【堀田】 はい、そのとおりです。

【前村】 そうですよね。そのプログラム委員会の中にエンゲージメントを入れて……。今、本田さんの話を聞いていて、こういうことを言っているのかなと頭の中に思ったのは、それはエンゲージメントはプログラム委員会のほうに寄せてしまって、せっかくここに皆さん集まっているんだから、サブスタンスをここでは話そうよというふうに本田さんが言っているのかなと聞こえちゃったんですけど、そんなことを言ってます？

【本田】 概ねそういうことです。だから、プログラム委員会1個でいいよねという話です。要は。

【前村】 なるほど。

【本田】 エンゲージメント委員会も何委員会もって、もちろんあったほうがいいんですけど、今、ここに来られている数がそもそも十何人しかいないし、さらにその中で分けていって3つとかにやったのが、やはり私は、失敗だったと言いたくはありませんが、結局どの仕事も回らなかったのが現実なので。

もう1個つくってもいいと思いますよ。プログラム委員会と実際のオペレーション委員会をね。だから、それがセクレタリーなのか、もしくは何なのか分からないんですけども、プログラムだけを考えるだけの人と、それ以外の実行部隊、もしくは、事務局的な機能としてというのは、もちろんあると思うんです。でも、別にプログラムやりましょう、NMLの両方はもう多分できないと思います。私の意見では。

いや、そんなことないよという方がいらっしやったら、ぜひ声を上げていただきたいなど。

【堀田】 堀田ですけれども、本田さんおっしゃるように、リソースがないですよ。だから、小分けにすればするほどうまくいかないことが往々にしてあるというのは、そのとおりだと思います。

だから、エンゲージメントチームというのを、委員会というのを分ける分けないは別として、エンゲージという機能は必要なので、それを、もちろんSecretariatに放り込むこともできれば、もう一つのところに、イベントチームに放り込むこともできれば、プログラム委員会に放り込むことももちろん可能ですけど、やらなきゃいけないことは変わらないですよ。結局。今年はエンゲージメントやりませんというわけじゃないでしょうから。

だから、それを分けた委員会にするかどうかというのは、私はそんなに気にはしていませんけど。ただ、プログラム委員になった人にエンゲージもやれって言うんだったら、もう一度最初から手を挙げますかと聞かなきゃいけないとおもいます。

【本田】　　ちょっと私の言いたいことがうまく伝わっていない懸念があるんですが。いわゆるエンゲージメントの部分、全部そこにプログラム委員が丸ごと持ってくれということではないです。だから、前回やろうとしていたエンゲージメント、前村さんは分かっていただけだと思うんですが、前回やろうとしていた各組織のプロモーションとか、いろいろアプローチしていこうとしましたよね。IGFだったらこうで、云々かんぬんとか、そういうところのペーパーを作ったりとかですね。

それでやろうとしたんですけど、やっぱりできなかったというところは、そこは一旦置いて、ただ、IGFのこの事前会合をやりますよと。その秋の会合をやるんで、皆さん来てくださいねというところと、プログラムを作っていく中で、こういうセクターの方に来てもらいたい。例えば、マイネームで申し訳ないけど、SNSというジャンルで、ツイッターとインスタがあるわけだから、この会社の制作担当の人に来てもらいたいねとか。例えば、ISPからは、こういうことをやっているISPがいるんで、来てもらいたいねとか。そこは、だから、コーディネーションのところと絡む、プログラム作りのところとも絡むので、そういう部分でちょっとエッセンスとしてエンゲージを入れたらよかろうというのが私のアイデアですということです。

だから、別に今までのエンゲージ機能も全部そのプログラム委員会に丸ごと入れようというわけでもないということ。

今後、その方法でやるべきとも私は思いませんし、ちゃんと2つに分かれているほうが、それは当然いいです。ただ、今の現状では、人数も限られているし、まだ巻き込んでいる数も少ないので、やはりいろいろ散文的にあれもこれもと打ち上げ花火をやるよりは、一つに絞って、ここでまずプログラム作りをきちっとやると、そこに注力したいというのが私の考えで、今回、それでプログラム委員に私は応募したということです。

【前村】　　少し分かってきたんですけど。じゃ、やっぱりステークホルダーエンゲージメントサブチームの振り返りレポートというのを書いてもらって、その中で、そのサブチームはこういうタスクを定義しました、これ、できませんでした、なぜだろうというレポートがあれば、各サブチームの個々のタスクを、これ、プログラムサブチームに突っ込んだほうがうまくいきそうだねとかというのが分かってくるんだと思うんです。

今は多分口でやり取りしていると、私の頭の中でも定義があっちへ行ったりこっちへ行ったりしている感じなんです。エンゲージメントの。なので、やっぱり書き物にして、本田さんがよくおっしゃっているように、タスク分解して、それはどこだろうねという考え方をしたほうが、話は結果的に早いかなと思います。今こうやって口でやっているよりは。

【本田】 ありがとうございます。

【前村】 先ほどばらばらと口で言ったような振り返りを、ステークホルダーエンゲージメントサブチーム、去年の取りまとめようとしていた私は思うんですけど、それを書き落としたものというふうなものでよろしければ、それは作ろうと思います。すぐに。

【本田】 前村さん、ありがとうございます。

【堀田】 随分役立つと思います。それは。

【前村】 はい。そうすると、先ほども申したように、イベントにエンゲージメントをしようとしていたんじゃないんだよねと申したようなことを書きますので、それが明確化につながるのであれば、それはそれでいいと思いますね。

【本田】 前村さん、同じことです。私も言いたかったのは、ほぼ同じことです。

上村先生、こういった意味で、私がエンゲージ機能も取り込もうなんていうふうに言ったわけなんですけど、少しくリアになりましたでしょうか。

【上村】 はい。少しはクリアになったんですけど、クリアじゃなくなったところも出てきたんですよね。

ただ、堀田さんが整理してくださったプログラム委員会の進め方のドラフトで、各委員会を区別するようになっていて、そこでリエゾン強化しようという御提案がありますよね。そのリエゾンを、リエゾンじゃなくて、例えば、各委員会に入っている人が、この総会的な場とは別に、もうちょっと機動的に集まったりすると、それが本田さんのおっしゃるプログラム、本田さんの言うプログラム委員会になるかなというふうに思いながら話を聞いていました。

【本田】 そうですね。やはりメンバーを今細分化すべき時期ではないと思います。組織化も、イベントも、あれもこれもというのは、やはりできないので、組織が整った段階で、やはり委員会を分けていくとか、責任者ももちろん必要ですから、そういう部分ではというのはあるんですけど、もう少し今はまだラフでやっていって、手探りでやっていながらという部分で、もう少し手探りでやりますが、でも、レポートはきちっとして、前村さんが今書いてくださるとコミットしていただきましたが、そういうふうに昨年から今年、今年より来年というふうに変えていけばいいので、ぜひ、というふうに私は思います。

いかがでしょうか。ここまでのところで、私たちとごく限られた方のみになってしまったので、何かお声を上げていただける、もしくは、御意見、賛同、もしくは反対、何かおありの方は、ぜひ積極的にお願ひしたいと思います。

では、お時間のほうもあれになってきているので、アジェンダに戻っていただいていいでしょうか。アジェンダ、お願いします。

ここまでのところで、ユースのことはちょっと触れることができなくなってしまったような気もするんですが、山崎さん、プログラム委員会の立ち上げを決める。これは決めましたね。

去年のプログラム委員会に入ってもらおう。それはお声掛けをするということですね。ここは。お声掛けをする。今のプログラム委員2名からお声掛けをする。

公募セッションの評価だけでなく、担当を持って責任を持つ。プログラムの作り込みも責任を持つということですよ、上村さん。

【上村】 私が今指名されました？

【本田】 ええ。

【上村】 でも、そうですね。作り込みというか。私はそこまで言ったのかな。そういうものもあるということですかね。この会として企画するセッションについては、プログラム委員会がきちっと責任を持ってやる。

【本田】 そうですね。私も、これはプログラムになったから、直ちに一人一人担当を持ってというふうに言うつもりは私はないです。

というのは、プログラム委員にはなったけど、担当を持つほどリソースがないよという方もいらっしゃると思うので、それはこのプログラム委員会としてプログラムの作り込みに責任を持つわけであって、別に1人必ず1プログラムということでもないのかな、直結はしないのかなと思います。

チャーター範囲は、今日決めなくてもいいということですが、一応今話したところで、補足資料等を用意して、また改めてというところになるかと思います。

【上村】 そこで質問ですけど、決めなくてもよいというか、決められなかったということが正確だと思いますけど。これ、決められなかったとして、勝手に動くしかないんですよ。

というのと、あとは、秋のイベントについても、例えば、堀田さんのメモだと、割とイメージのあるメモを頂いていますけど、どんな枠でイメージすればいいのかというあたりも、まだオープンにせざるを得ないということになりますか。

つまり、去年のような完全公募式のものなのか、企画も交えるのかとか。

【本田】 その詳細は、プログラム委員会の中でそれこそ決めていけばいいのではないですか。

【上村】 そういうものなんですか。いや、何となくその辺も、今日のこの場の決定事項なのかなと思っていたので。

【本田】 プログラム委員会自体の進め方についてですか。

【上村】 いやいや、違います。プログラム委員会自体の進め方ではなくて、秋のイベントの青写真みたいな。

【堀田】 プログラム構想ですね。

【上村】 はい。

【堀田】 プログラム構想については、だから、前回の活発化チームで、全部を一応候補にしましょうということで、キーノートから、活発化チーム企画セッションから、ずっとリストアップはしました。

これをどう構成すべきかというのは、プログラム委員会が活発化チームに提案して決めてもらうということになるんじゃないかなと思いますね。

【本田】 公募セッションだけだと、後から来た人に……。ごめんなさい。ちょっと読んじゃいました。

【上村】 今堀田さんがおっしゃったような形であれば、じゃ、今日決めたところから少しでも先に進められるような気がします。

すみません。前回の決定事項について、ぼんやりしておりました。失礼しました。

【本田】 ありがとうございます。でも、そこ、触れてくださって。中身については、ぜひプログラム委員会の中でやっていきたいと思ひますし、まず上村さんと私がなっていますので、まず上村さんとも連携をしながら、丁寧に進めていきたいと思ひております。よろしいでしょうか。

では、アジェンダに戻っていただいて、ユースのところは一応資料だけばっと見て、そこをしようかなんていうふうに思ひますけれど、時間も超過しているのです。

ユースの資料ってありましたですかね。山崎さん、1~2分で説明していただくことは可能ですか。特に今何を決めるというものではないと思ひますので。

【山崎】 ユースをやったほうがいいのかどうか、やるとして、我々でやるのか、それとも、どこかに乗っかるのか、我々でやるとすれば、スケジュール感はどんな感じかというあたりを決めたいと思ひていましたが、もう時間超過したので、議論に入るのは無理かなと思ひています。

以上です。

【本田】 ありがとうございます。

少し下を見せていただけていいですか。

【 】 すみません。これも質問していいですか。

【本田】 どうぞ、どうぞ。

【 】 これ、今日のアジェンダにこの項目が入ったのは、こういうユース向けの会合を単独—単独というのは、切り出して開催しようというような話だったわけです。そういう話がしたいなというので、この話題があるわけですか。

【本田】 必ずしも単独とは限らず、ただ、ユースやったほうがいいよねという、ふわっとした要望が前回あったので、この資料も相当ふわっとしていますけれども。ただ、課題意識を多少整理してみたという程度なので。

【 】 分かりました。了解です。ありがとうございます。御苦労様です。

【山崎】 総務省のほうから御紹介いただいた、この前の学生さんのところの母体というか、ネット安全サミットとかという青少年のサミットのほうを見たんですけれども、非常に各地方でもセッションがあって、東京でもあって、オンラインでもあってというような感じで開催されていて、ネットによりデジタル教育とか、IT教育とかに特化されている学校さんとか各地方でそれぞれ集まってきた方々が登壇されたり、イベントしてかなり大きくセットされているということを拝見しましたので、やはりIGFとしても、そういった今広まっている、例えば、デジタルネイティブの世代に対して、

教育という観点から、もしくは、青少年のインターネットの安全利用とか、言っていけば、テーマは幾らでも増えていくので、そういった部分でやっていくこと。

新たな参加者が増える。特に30代以下というところで増えるということは、新たな視点が加わってくることになると思いますので、これは今すぐ何かをどうこうというわけではありませんが、2022のターゲットにすると書いてあるんですが、少しずつ準備を進めていっていけばいいのではないかと考えているところです。

堀田さんもいろいろコメントありがとうございます。

では、アジェンダのほうに戻っていただきたいと思います。

【本田】 一応振り返りをしながらここまで来たので、Todoは概ね大丈夫なのかなというところですが、NRIはスキップとして、秋イベントのところだけちょっと振り返りをしてにしましょうか。

山崎さん、Todoは、今まとめていただけていないですね。

プログラム委員を増員する。ありがとうございます。

プログラム構成については、プログラム委員会の中でやると。もちろん、適宜皆さんにメール上で、こんな感じでいかがでしょうかとか、ラフなものはお示ししたり、御意見募りながら入っていくので、何もかもプログラム委員会に入らないと何もということではないと思いますので、そんなように進めていければいいのではないかと考えているところです。

何かTodoのところ、さらに追加したほうがいいこと、もしくは、抜けているという点があれば、御指摘いただければ助かります。ちょっと私も上のところを忘れてしまったところがあるので。

秋イベントまでの工程表作成というところですね。これは、じゃ、積み残しですね。

山崎さん、何かありますか。

【山崎】 秋イベントについてはないですね。

【本田】 分かりました。

【山崎】 ユースについては、もっと詳細にしたほうがいいのか、そういうのはありますか。

【本田】 そうですね。引き続き、先ほどのユースイベントについてのところに書き込むとかしていけばよいのではないかと私は思うんですが、いかがでしょうか。

【山崎】 はい。じゃ、皆様もお気づきの点があれば、書き込んでいただけるとありがたいです。

【本田】 先ほどもほかの方からの意見がありましたが、全て何もかもここで口頭だけでやり取りするというのはもうナンセンスですし、メールとドキュメント、グーグルドキュメントも活用しながら、皆さんのいろんな声を拾っていければいいのではないかと考えているところです。

【上村】 1つ確認させていただければと思います。

プログラム委員会の中で話してもいいことかもしれないんですけど、素朴に思うと、その秋のイベントの中でユースのセッションを設けましょうとかという発想に私だったらなるんですけど、何となくそういうふうに議論が見えないんですけど、どういう感じなんですかね。

【本田】 私は賛成です。それは端的に言って。

【堀田】 私も、そういう議論を今日時間があればできればと思っていたので。まだそこまではつきり、どういうことに絞りたいというところまでは言ってなかったです。

【上村】 分かりました。いや、突然そういう項目があったので、どういう意図なのかなというのを確認させていただいた次第です。ありがとうございます。

【本田】 ありがとうございます。上村先生、積極的に発言いただいて、大変助かりました。

今日の反省として、やはり時間管理とハンドリングがうまくいかなかったところ、ちょっと読み込みが甘かったところもありましたので、次回私がもしやる時は、反省としたいと思います。

前村さんがいつもやってくださっていることが、かなり難しいというか、いかにハイレベルなことをしていただいているかというのを身をもって体感いたしました。

【前村】 いえいえ。何をおっしゃいますやら。

【本田】 では、最後、皆さんに何かフリーにコメントとか、一言二言ある方がいらっしゃれば、ウクライナの件はもうスキップしますので、あれば。連絡事項等々でございますでしょうか。

【前村】 ウクライナの件は、いろいろとかまびすしいというのか、騒がしいので、皆さんの御関心もあろうかと思うんですが。私の考え方としては、これ、活発化のためにどうしようかという話をしているところで、サブスタンスを議論するためにこの時間を取っているわけではないので、やっぱり抵抗感があります。なので、この後に有志で残ってやるとかというんだったら、会議を少し残しておいてもいいのかもしれないなと思うんですが、そういう違和感はちょっと呈させてください。どれくらいそういうふうに思う方がいらっしゃるのか、よく分からないですけど。

一方で、御関心がある方は結構多いんだろうなとも思います。

【本田】 はい。私が一応提案したので、私から言わせていただくと、別にこれを議論しようとか、丸ごとこれのために15分、30分取ろうというふうに提案したわけではなくて、あくまで雑談の延長レベルでということなので、この後、山崎さん、録画って切れますかね。どこかのタイミングで一度。

【山崎】 はい、切れますよ。

【本田】 じゃ、切れたときに、そこからちょっと残って少し話すぐらいの、そんなラフな感じでしょうか。任意の御参加で。

【山崎】 その場合、マックス何分と決めないと、延々と続く、朝までということは私は無理なので、最長15分とか30分にとどめていきたいかなと。

【本田】 15分程度にしましょうかね。

では、山崎さん、最後、次回についてと、取りまとめをお願いします。

これ、司会者がいつも言うんでしたっけ。この打合せの。

【山崎】 そうですね。司会者に言っていただいたほうが。

【本田】 3週間おき開催が原則、28日としたいがよろしいか。月末になりますが、皆さん、よろしいでしょうか。何かこのあたりでインターネット関連で重なっているものとか。

すみません。ずっと先ほどから大分皆さん置いてけぼりになってしまっている方もいるかもしれないんですが、IGF関連の動きでは、月末に重なるところはないでしょうか。

【前村】 純粹に年度末だという以外は大丈夫です。

【本田】 そうですね。分かりました。

じゃ、28日でもよろしいでしょうかね。御異議がないようでしたら、28日の同じ時刻、5時開始としたいと思います。

【加藤】 すみません、加藤ですが、もし少し時間を動かしていただけるなら、ありがたいですの

【本田】 前にですか、後ろにですか。

【加藤】 どちらでもありますが、どちらかという、4月の第1週ぐらいのほうが。

【本田】 日付をですね。確かに、そうですね。年度末ぎりぎりのところでね。

【加藤】 年度末でもあれですけど、28日は私の特別理由があって、28とか30はどうしても外せないがあるので、というだけです。一人のは関係ないので。

【本田】 前村さん、どうでしょうか。やはり月末で、しかも年度末で私はあんまりそういうのに仕事上関係なんです。

【前村】 むしろイベントのほうの進行が1週間遅れるということで、大丈夫かというのが気になりますけど。

【加藤】 そうですね。

【本田】 仮に4月にするとすると、4日ですか。

【前村】 4日ですね。

【加藤】 それとも、25日の金曜日とかにするとということがもしよろしければ。

【本田】 なるほど。

【堀田】 すみません、堀田ですけど、前回出たスケジュールだと、セッションの一次募集開始が3月下旬になっているので、これをもし守るのであれば、それより前に一回やっておいたほうがいいですね。

【加藤】 そういう感じですよ。22日の週にやって、その募集をすぐやるという感じですかね。

【本田】 21が祝日なので、22にやるという御提案ですか。堀田さん。

【堀田】 いや、私は日付は細かくは。

【本田】 でも、月末にということをお話しになったので。

【堀田】 22の週にやっておかないと、募集開始ができないなと思っただけです。

【本田】 確かにそうですね。じゃ、22でいかがでしょうかね。22の火曜日の5時。私は大丈夫です。

【加藤】 オーケーです。

【木村】 すみません、JAIPAは二次会がありまして、誰も出られないです。

【本田】 なるほど。

【加藤】 じゃ、23かな。

【本田】 23、いかがですか。

【加藤】 23は、JAIPAがちょっと会議があるので、私が出られないですね。

【本田】 そうですか。

【前村】 25だとどうですかね。

【加藤】 25もありますけど、でも何とかします。大丈夫です。

【本田】 じゃ、たまにはどうでしょうか。25で金曜日にしてみるというのも、皆さん、いいんじゃないですか。

【浜田】 私はちょっと出られませんが、ほかの皆さんがよいなら、どうぞ。

【本田】 浜田さん、ありがとうございます。

じゃ、報告のほうで代えさせていただくということにもしたいかと思います。

ありがとうございます、浜田さん。

じゃ、今発言されたメンバーの中では、25日の金曜日の5時という御提案になってきたんですが、何か別の意見をお持ちの方、もしくは、ここはというのがあれば。

概ねよろしいでしょうかね。

堀田さん、高松さんは大丈夫ですか。25日の金曜日、大丈夫ですか。

【堀田】 はい、大丈夫の予定です。

【高松】 大丈夫です。

【本田】 分かりました。

【木村】 明日って何かあるんですか。明日の5時って何かあるんですか。

【山崎】 いや、特に何もございません。8日というのが流れていたかもしれませんが、今日のミスプリだと思います。

【木村】 そうですか。分かりました。すみません。

【本田】 ありがとうございます。

上村先生、25日金曜日ですけれども、いかがでしょうか。

【上村】 大丈夫です。

【本田】 大丈夫ですか。ありがとうございます。上村先生が消しますとあれですので。

ありがとうございます。では、確認ですが、3月25日金曜日の時間は5時からということでよろしいでしょうか。

では、これで決めさせていただきます。

では、以上で、ここで一旦切りまして、今日の15回会合は終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

これ以降、ちょっとウクライナ関連の雑談がてらというところになるかと思いますが、どうもありがとうございました。

以上